

## 放課後子ども教室事業

### 自治体名

岩手県一関市

### 学校数

小学校 34 校 中学校 18 校

### 震災後の地域の状況・仮設住宅数

住家全半壊一部損壊が4153棟、学校・社会教育施設の被害は169箇所であった。現在も放射能問題で多岐にわたり影響がある。また、沿岸部からの被災者を受け入れており、避難者数 617 世帯、1,247 人(平成 26 年 10 月 31 日現在)という状況である。

### <取組名>

学校・家庭と連携しながら地域で育む地域再生事業

### 取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○	○		地域婦人団体、老人クラブ、食生活改善推進員等
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	6 名	356 名	30~205 回	公民館、社会教育施設、小学校 等

### 活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					( )
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
		○	○		( )
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○	○	○	○	( )
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
		○			( )
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	○			○	( )

当市の放課後子ども教室は、「地域全体で 子どもを見守る まちづくり」を基本理念とし、地域の方々からのご協力をいただき、市内 21 か所において実施しています。

東日本大震災後、地域コミュニティを活用した防災対策や災害時の迅速な対応の重要性を再認識し、本年度も市全体での取組みとして、指導者を対象とした救命救急の研修会を開催しています。

また、各教室においても避難訓練を開催するなど、放課後子ども教室を通して生まれた地域コミュニティ単位でも災害に対する意識を高めています。

さらに、日頃から子ども達を含む地域の人たちが交流を深めることが、緊急時においても協力して避難し、安心して過ごせることにつながると考え、子ども達と地域の大人達が触れ合う機会(季節行事、公民館まつり等)を企画・実施しています。

指導員や担当職員が学校、保護者と連携を図りながら事業を実施していくことが、地域コミュニティの強化に繋がっていると考えます。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

当市では、東日本大震災での経験を通して地域コミュニティの重要性を再認識しました。

少子化に加え、地域で遊ぶ子どもの姿が少なくなってきたため、限られた大人達しか子どもの学年、保護者名等が分からなくなっています。地震直後、地域の子どもに対して「この子はどこの子？ 親はどこの誰？ どこに連絡すればいいの？ いつ迎えに来れるの？」と多くの地域の方が集まっても子どもが孤立してしまうといったことが起こりました。そのような中で、その場に居合わせた子ども教室の指導員が自宅へ送ったり、保護者へ連絡して一緒に迎えを待つなどの対応をした事例がありました。このことから子どもと地域の大人が結びつく活動の必要性を再認識したところです。

◇住民等からの要望・必要な取組

日頃からの地域コミュニティによる安全と安心の確保

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

【公民館 等】：実施主体として企画運営の考案・実施、子ども教室の活動の周知（公民館報等）

【学 校】：子ども教室活動への理解

【保 護 者】：送迎等に関することについて公民館等との連絡の徹底

【地 域】：子ども教室活動への理解と指導員としての協力

◇取組の充実や課題解決のための工夫

○救急救命・避難訓練の実施

指導者等を対象とした研修会において救命救急の研修を実施しました。

また、各教室において緊急連絡網の作成を義務付け、避難訓練を実施した教室もあります。

○地域コミュニティの強化

子どもと地域の方々が交流できる企画（季節行事、公民館まつり等）を実施し、また、地域団体（婦人団体、老人クラブ等）との連携により世代間交流も実施しています。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

○子ども教室における緊急連絡網の整備及び緊急時に備えた避難訓練の実施

○地域内における子ども、保護者、地域の方、学校関係者、行政の顔がつながる関係づくりの拡大と充実

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

指導員参加人数(延べ):H24年度 4,511人、H25年度 5,642人、H26年度 5,348人

◇課題や今後の展望

○緊急時の備えの充実

○地域内のコミュニティのさらなる拡大と充実